

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 19

2009年8月18日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。  
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は 松尾廣伸研究室です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「相談会」やらまいか！のご案内
2. イノベーション・ジャパン2009で発表・出展いたします
3. JST Innovation Bridge静岡大学研究シーズ発表会を開催します

---

1. 「相談会」やらまいか！のご案内

日時 2009年8月19日（水）13：00～17：00  
会場 浜松市城北図書館2F 第2研修室  
対象 起業や新規事業をお考えの方、中小企業経営者の方など  
内容 起業・創業、経営相談など（1組1時間程度）  
定員 1時～、2時～、3時～、4時～ の計4組  
相談員 山崎眞嗣氏（はままつ産業創造センター経営コーディネーター）  
問合せ先 浜松市城北図書館 TEL 053-474-1725

---

2. イノベーション・ジャパン2009で発表・出展いたします

日時 平成21年9月16日（水）～18日（金）10：00～18：00  
場所 東京国際フォーラム（東京・有楽町）  
主催 （独）科学技術振興機構、  
（独）新エネルギー産業技術総合開発機構

静岡大学の発表・展示内容

<新技術説明会/発表>

○9/16（水）12：30～13：00

工学部 井上翼准教授

「ソフト・柔軟・強靱・高導電カーボンナノチューブ繊維」

○9/16（水）13：30～14：00

工学部 三浦憲二郎教授

「様々な絞り模様を加工するデジタルシステム」

○9/17（木）16：30～17：00

教育学部 中野美恵子教授

「高齢者の自立体力テスト」

○9/18（金）13：30～14：00

工学部 海老澤嘉伸教授

「人が注視する点を検出する装置」

<展示 9/16～18>

○教育学部 中野美恵子教授

「高齢者の自立体力テスト」

○工学部 井上翼准教授

「ソフト・柔軟・強靱・高導電カーボンナノチューブ繊維」

○工学部 海老澤嘉伸教授

「人が注視する点を検出する装置」

○工学部 山下光司教授

「がんの早期発見・早期治療のための医用材料のイノベーション」

- 工学部 岡島いづみ助教  
「亜～超臨界流体を用いる炭素繊維強化プラスチックのリサイクル」
- 工学部 犬塚博教授  
「果実の硬度の非接触低侵襲測定法」
- 工学部 岩田太准教授  
「光学顕微鏡とSPMIによる微細計測、微細加工技術開発」
- 工学部 大橋剛介准教授  
「手書きスケッチ入力による画像内容検索」
- 静岡技術移転合同会社（静岡TT0）

入場料 無料

詳細 <http://expo.nikkeibp.co.jp/innovation/index.html>

静大発表の問合せ先 静岡大学イノベーション共同研究センター  
担当 藤縄、大内 TEL 053-478-1704

---

### 3. 【予告】JST Innovation Bridge静岡大学研究シーズ発表会 ～光・電子・ナノテク分野～ を開催します

共同研究に意欲的な静岡大学の研究者が、イノベーション創出の可能性を秘めたシーズ候補をご紹介します。同時開催のポスターセッションにて、研究者と直接意見交換を行うことも可能です。

日時 2009年10月19日（月）13：00～17：00（予定）  
場所 東京ステーションコンファレンス（サピアタワー6階）  
主催 （独）科学技術振興機構、静岡大学  
対象 発表者との共同研究検討を目的とした企業等の方  
問合せ先 静岡大学イノベーション共同研究センター  
TEL 053-478-1413

---

#### 《 静大ラボ紹介 -5- 》

工学部電子電気工学科 松尾廣伸研究室

2008年度から動き出した国の重点施策である「農商工連携」は、中小企業者と農林漁業者がお互いの経営資源を活用して新たな付加価値を生み出すことを目的としている。

そうした中、農業産出額が全国で上位に位置される静岡県西部地域から東三河地域は、農商工連携の可能性充分な地域であると言える。一般的に勘と経験に頼る部分が多いと言われる農業に、先端技術を活用して農業をハイテク化するプロジェクトに参加している松尾研究室を訪ねた。

松尾先生は、アーク放電を利用したフラーレン合成等の放電応用やプラズマ工学を研究されていたが、現在では主に自然エネルギー利用・省エネルギー化や温熱環境維持分野を研究されている。

一昨年前からは、県農林技術研究所と県温室農業協同組合と連携し、温室メロン栽培における小型ヒートポンプを活用した温・湿度管理を行うことによる省エネ効果の実現を支援しており、産学官連携による施設園芸作物の品質の安定と収量の確保に貢献している。

松尾先生も、従来から勘と経験に頼っていた農業を数値化して平準化する作業において、大学シーズが活用できれば今以上に農商工連携が進むのではと期待している。

浜松・東三河地域のものづくり産業集積が、百年に一度と言われる大不況の中で活力を失いつつある今こそ、産学官のシーズを持ち寄った農商工連携に新たな光明が見える可能性もあると感じた。

（記：鈴木 俊充）



Vol.19\_09.08.18  
by Copyright(c)2008-2009 Innovation and Joint Research Center,  
Shizuoka University. All rights reserved